

中国人力資源社会保障部代表団 訪問日程 平成 28 年 10 月 19 日（水）～10 月 26 日（水）

1 プログラム概要

中国人力資源社会保障部代表団（団長：付躍欽（ふ・やくきん）国際交流サービスセンター主任）計 35 名が、10 月 19 日から 10 月 26 日までの 7 泊 8 日の日程で来日しました。

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、代表団は日本の労働関係組織の視察や関係者との交流を通じて、日本の同分野への理解と関係者との親睦を深めました。また、山形では歴史的建造物の見学、日本文化体験などを通して「クールジャパン」に直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

10 月 19 日（水）

- ・羽田空港より入国
- ・皇居二重橋見学
- ・厚生労働省訪問
- ・オリエンテーション

10 月 20 日（木）

- ・高齢・障害・求職者雇用支援機構訪問
- ・千葉職業能力開発促進センター高度訓練センター訪問
- ・歓迎会

10 月 21 日（金）

- ・キャノンものづくり人材育成センター訪問
- ・高校生を対象とした企業説明会視察

10 月 22 日（土）

- ・山形県へ移動
- ・やまがた技能五輪大会視察
- ・日本文化体験

10 月 23 日（日）

- ・やまがた技能五輪大会視察
- ・高島ワイナリー見学
- ・米沢市城下町見学

10 月 24 日（月）

- ・松尾芭蕉記念館、山寺見学
- ・中央職業能力開発協会との交流

10 月 25 日（火）

- ・東京へ移動
- ・商業施設視察
- ・歓送報告会

10 月 26 日（水）

- ・羽田空港より帰国

3 写真

	
<p>10月19日 皇居二重橋見学 (東京都)</p>	<p>10月19日 厚生労働省訪問 (東京都)</p>
	
<p>10月20日 高齢・障害・求職者雇用支援機構訪問 (千葉県)</p>	<p>10月20日 千葉職業能力開発促進センター高度訓練センター 訪問 (千葉県)</p>
	
<p>10月20日 歓迎会 (東京都)</p>	<p>10月21日 キヤノンものづくり人材育成センター訪問 (茨城県)</p>

	
<p>10月21日 高校生を対象とした企業説明会視察 (神奈川県)</p>	<p>10月22日 やまがた技能五輪大会視察 (山形県)</p>
	
<p>10月23日 やまがた技能五輪大会視察 (山形県)</p>	<p>10月23日 やまがた技能五輪大会視察 (山形県)</p>
	
<p>10月24日 中央職業能力開発協会との交流 (山形県)</p>	<p>10月25日 歓送報告会 (東京都)</p>

4 参加者の感想 (抜粋)

○日本は、職業能力開発と技能人材育成の方面に力を入れており、またとても良い成果を上げている。ハローワークの事業では、日本政府はハローワークの職業紹介機能と職業能力育成事業を効果的に結び付けており、しかも、市場の需要に応じて適宜調整を行っているため、就業者にとり良い就職・就業を実現している。この方面において、我が国の人力資源市場を作り上げる上で、とても参考、手本になると思う。

○①日本は技術者の育成を重視しており、国の制度においても政策においても、実用的で効果的な方法が形成されている。とりわけ、企業が技術人材育成を自発的、主体的に行っており、国家の技術者育成コストの引き下げを可能にしており、また、全体的に企業の、特に製造企業の技術レベル向上において、良い方向につながっている。

②時間が限られているため、日本の技能五輪大会、特に製造業に関する競技の評価内容については、十分に理解できたとは言えないが、更なる交流の機会があればよいと思う。

○この度、日本の外務省が計画されたこの青年代表団に参加する機会を頂き、大変感謝している。私及び団員にこのような学習と交流の機会を与えていただき、ありがとうございました。私は、このような機会を頂けたことをとても大切にしたいと思う。

今回の交流活動では、私たちの業務領域に関して、深く交流し学ぶことができた。交流を通して、深く印象に残ったことは以下のとおりである。

(1) 活動の手配がとても細やかで、業務に関係する多くの分野が網羅されており、どれも団員が非常に期待していた方面のものであった。

(2) 日本は職業人材育成での応用と、実技、それぞれがつながりを発揮することを重視している。特に、企業の必要に応じて技術人材を育成しており、大変实际的である。

(3) 日本国民の素養、国民の心中に深く入り込み、我々が学ぶ必要のある面は多く、学んだことを活用すべきである。

帰国後は、仕事上で活かし、更に注力して、関連知識を学ぶためにも交流を深めたい。また、周囲の人に日本で学んだことをよく伝えたい。とりわけ、「人に迷惑をかけない」という考え方について、自分の下の世代に伝え、自分の子供たちにもこの考え方を広めたい。

○この度の訪問を通して、日本の職業技能人材育成に関する改革、施策について、比較的深く理解することができた。日本は、「匠」の育成において、行き届いた細やかな仕組みと強力な実行力があると感じた。最も印象が深かったのは、日本人の少しもいい加減なところがない仕事への態度と行動で、どのような質問に対しても真剣に細かく答えてくれ、非常に友好的な姿勢が表れていた。

帰国後は、周囲の人に対して、日本の大都市から小さな路地まで、街の素晴らしさを伝え、日本の優れた製品について紹介し、そして、日本人の中国からの客人に対する友好的で、親切で根気強い姿について伝えようと思う。また日本の風土や人柄、文化、伝統について学んだことも伝えたい。仕事の面では、日本の先進的な人材育成や、技能五輪大会の状況について交流と橋渡しを進めていく。先進的な経験や方法を取りまとめ、今後の仕事において応用し、参考にしていきたい。

○日本の細やかな管理と仕事に対するきめ細やかな姿勢については学ぶ価値があった。例えば、省エネルギーや環境保全、節水、廃棄物のリサイクル、とりわけ、国全体が基本的には小型車に乗っているなど、どの人も省エネルギーの意識を持っており、制度上でも相応する措置が設けられている。全世界が共通して資源問題に直面しており、成功経験は共有すべきである。

日本は製造業に強い国で、科学技術人材の育成においては、成熟した先進的な仕組みを有している。日本の技能五輪大会選手は、皆、企業自らが育成している。企業が技能人材を育成するのは、自社の技術レベルを高めるためであり、選手というのは単に育成過程における付加価値に過ぎない。選手が大会に参加する目的は、賞を得るためだけではなく、更に重要なことは「100%完璧な製品を作る」ことである。これがまさに、日本の推し進める「匠の文化」「匠の精神」であり、日本社会の繁栄に向けた重要な支えであるだけではなく、一つの重要な歴史的蓄積である。このことが、私が中国に持ち帰り、共有して分かち合いたいと思う重要な成果の一つである。